

第2部 市民の意見を聴く会 テーマ：「食と農」学校給食と地産地消

各グループでの主な意見や感想

◆Aグループ



市民の意見等

- 地産地消は良いことだし、それを推し進められる環境にあることが分かった。もし、高くなる場合は市が補填してでも地産地消を進めて欲しい。
- パン用の小麦を作って地産地消を更に高めるのはどうか。
- 農家も切り詰めてやっているのので、農家の育成と農家に対する補助金や給食に対する補助も必要だと思う。

◆Bグループ



市民の意見等

- 現在、学校給食費が値上げされており、子育て世代にとっては大きな負担となっている。子育てを終えた世代にとっては、自分の子ども達の給食費は特別な事情がなければ、親が払った方が良いと思う。
- 農業の現状と課題について、①高齢化によって農業の担い手不足が問題となっており、生産力の低下が見られる。②地産地消の推進に向けて、特産品のさらなる活用や魅力発信が求められる。③森林や食材の重要性を伝える教育やイベントの実施も有効ではないかと思う。

◆Cグループ



市民の意見等

- 農家の手取りが増えない。
- 地産地消の課題として、松山市は大量生産、購入で安い、東温市は高い。

◆Dグループ



市民の意見等

- 老人会で給食を食べる機会があった。こんなにおいしいなら、もっといろんな人に食べる機会を増やしてみてはと思った。生産者さんもおいしい給食になれば、喜ばれると思うし、子ども達が食べれてと思うとうれしい。
- 新規就農者の私は、給食に出荷するために登録したが、うまく出荷のタイミングが合わせられなかった。育つタイミングなど難しいので、条件をクリアするのが新規就農には厳しい。
- 給食費 30 円のうち 15 円を補助では不十分。全て無償化となるように目指してほしい。子供の頃からずっと住んでもらい、東温市を好きになってほしい。
- 新規就農センターを卒業し、東温市で就農するのはメリットが少ないと感じる。野菜より果樹の方が儲かるので、市外に流れてしまう。東温市独自の支援体制を作ってみてはどうか。

◆Eグループ



市民の意見等

- 給食センターが地産地消を深めるために協議を行い、広報誌を通じての発信は素晴らしい。生き生きサロンの活動の中で、給食センターでの試食もしてみたい。
- 子ども達や教員及び保護者による農業の生産現場の学習も必要ではないか。生産者の価値観を上げるべきではないか。
- オーガニック給食への取り組みを考えてみてはどうか。農薬の使用を極力抑えて、品質を保てる工夫をしてはどうか。

◆Fグループ



市民の意見等

- 農業の現状が心配である。農業で生計を立て自立できるような環境が必要である。そのための支援をお願いしたい。
- 消費者にとって米の販売価格が高くなった（5キロ4,000円）という割に農家の収入は少ない。
- 新規就農者は、収益が見込めず生活ができないので2～3年で辞めてしまう傾向がある。

◆Gグループ



市民の意見等

- 学校給食に人参や大根などを出荷しているので参加させてもらった。生産者としては、標準価格が割に合わない。地産地消ということでコスト抜きで出荷している人もいるが、私はやっていけない。大洲などでは単価が東温市よりも高いようだ。
- さくら市場に15%の手数料を入れているが、その15%を市が補助すればこの地産地消事業を持続させることができるのではないか。
- 生產品、野菜の価格保障をしてほしい。率直にいうと単価を上げてほしいということです。